

ご入園
ご進級
おめでとう
ございます

永井先生からのメッセージ No.20

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

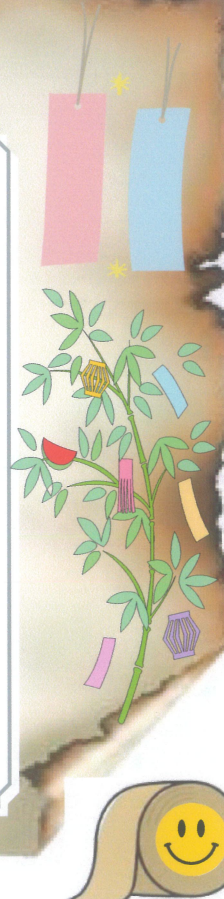
2024年 4月12日 野毛山幼稚園



Episode I

【『自分でできる』ということ】

- ▶ 1991(平成3)年・本町小学校。私は、初めて1年生の担任を任されました。1年3組・35名。野毛山幼稚園の卒園生(第40回しいのみ)も十数名。
- ▶ 7月3日(水)。七夕に向けて、糸を通した短冊に、思い思いの願いごとを書くことになりました。「もう一枚書きた～い!」「サッカーってどう書くの?」…
- ▶ そして、「さあ、飾ろう!!」となったときのことでした。
『Aくん』が、窓側の棚の上から、ガムテープを持っていく姿が見えました。器用に糸で結び付けている子もいます。チャレンジの末、「セロテープ作戦」に切り替える子もいます。(1年生とは、こんなものか。それにしても…)
- ▶ (セロテープはいいとして、さすがにガムテープは、見ばえが悪いんじゃないか?)すると、そんな私のもとへ、ニコニコ顔の『Aくん』がやって来て、こう言いました。
「先生。ガムテープ、自分で切れたよ!」
その瞬間に私が感じた衝撃。30年以上たった今でも、忘れられません。



① 私は、『Aくん』に、とんでもないことを言うところでした。

「糸で付けなさい!」「だれかにやってもらいなさい!」「ともかく、ガムテープは、絶対にダメ!!」など

② 『Aくんの笑顔』は、未熟者の私に、大きな反省を促してくれました。

「すごい。自分でできたねえ。」こうした感動のドラマ。家庭や幼稚園で、どれほどあったことでしょう。そのことをよく知りもせず、「まだできないこと」ばかりに目を向けがちだった自分。

③ 『Aくんのガムテープ』は、教師としての心構えを、私に諭(さと)してくれました。

「自分でできる」。これは一人ひとり、違う。その種類も、順番も、スピードも。決して比べてはいけない。「糸で結べた」「結び方を教わった」「セロテープで工夫した」「ガムテープが切れた」それぞれ違うけど、みんなが一歩ずつ前進する。先生がそういう見方で、一人ひとりの『自分でできる』を応援していけば、子どもたちは、仲間たちの『自分でできた』を喜び合うようになる。それが学校だよ、先生。 by 『Aくん』

4・5歳児『自分でできる』ほんの一部を抜粋

- シャツ(ボタンなし)を着る
- 顔を洗う/手が汚れたら洗う
- 鼻をかんでゴミ箱に捨てる
- はしでごはんを食べる
- ボタンやジッパーができる
- 自他の物を区別できる
- くつの左右が分かる
- 「一緒にやろう」「かして」などと言う
- ジャンケンをうまくやる
- 順番を待ったりゆずったりする

Episode II

- ①「勉強せねば」とネットでいろいろ調べていたら、運動編の中に、「ブランコに立ち乗りして一人でこげる」を発見。ちなみに私は、できたことがない。
- ②『Aくん』。今は立派なお父さん。お子さんは、ご家庭や幼稚園で『自分でできる喜び』を日々味わっています。もちろん野毛山幼稚園です。